

## 「症状別に見る」日常生活の健康チェック② 関節痛と人工関節

### 関節痛と人工関節

京都武田病院  
整形外科医長

濱口 裕之 氏



### 痛みとる効果ある置換術

**Q** 関節痛とは。  
**A** 関節痛の原因となる疾患には、変形性関節症や関節リウマチなどがあります。また外傷をきっかけとして関節痛を発症することもあります。痛みが続くと関節の動きが悪くなります。そのため歩くことや家事などが不自由になり、日常生活に制限が出るようになります。

**Q** 治療について。  
**A** 初期の段階では運動療法や薬物療法などの、関節の温存をめざす保存療法を行います。しかし痛みがきつくなり、関節の動きが悪くなって歩行が難しくなったら手術療法を検討します。手術療法には人工関節置換術や骨切り術、関節鏡手術などがあります。このうち、とても傷んでしまった関節には人工関節置換術を行います。人工関節置換術は、関節の傷んでいる部分を取り除いて人工の関節に置き換える手術です。この手術によって痛みが改善され、曲がりの悪かった関節がスムーズに動くようになります。個人差はありますが、人工関節の耐用年数は約15年後といわれています。

**Q** 人工関節の注意点は。  
**A** 人工関節置換術は痛みをとる効果が大きく、日常生活の質がおおいに向上しますが、いくつか注意点があります。人工関節は使用していると徐々にすり減ってきます。このため定期検診を毎年受ける必要があります。また発生率は1%程度ですが、人工関節の手術後に感染を併発することもあります。血の塊ができて血管をふさいでしまう深部静脈血栓症を併発することもあります。薬剤などで予防することがある程度可能です。人工股関節に関しては脱臼を予防するために、和式トイレの使用を控える方が望ましいでしょう。

**Q** 人工関節は使用している  
**A** 人工関節は使用していると徐々にすり減ってきます。このため定期検診を毎年受ける必要があります。また発生率は1%程度ですが、人工関節の手術後に感染を併発することもあります。血の塊ができて血管をふさいでしまう深部静脈血栓症を併発することもあります。薬剤などで予防することがある程度可能です。人工股関節に関しては脱臼を予防するために、和式トイレの使用を控える方が望ましいでしょう。

実際の新聞記事

#### Q 関節痛とは。

**A** 関節痛の原因となる疾患には、変形性関節症や関節リウマチなどがあります。また外傷をきっかけとして関節痛を発症することもあります。痛みが続くと関節の動きが悪くなります。そのため歩くことや家事などが不自由になり、日常生活に制限が出るようになります。

#### Q 治療について。

**A** 初期の段階では運動療法や薬物療法などの、関節の温存をめざす保存療法を行います。しかし痛みがきつくなり、関節の動きが悪くなって歩行が難しくなったら手術療法を検討します。手術療法には人工関節置換術や骨切り術、関節鏡手術などがあります。このうち、とても傷んでしまった関節には人工関節置換術を行います。人工関節置換術は、関節の傷んでいる部分を取り除いて人工の関節に置き換える手術です。この手術によって痛みが改善され、曲がりの悪かった関節がスムーズに動くようになります。個人差はありますが、人工関節の耐用年数は約15年後といわれています。

#### Q 人工関節の注意点は。

**A** 人工関節置換術は痛みをとる効果が大きく、日常生活の質がおおいに向上しますが、いくつか注意点があります。人工関節は使用していると徐々にすり減ってきます。このため定期検診を毎年受ける必要があります。また発生率は1%程度ですが、人工関節の手術後に感染を併発することもあります。血の塊ができて血管をふさいでしまう深部静脈血栓症を併発することもあります。薬剤などで予防することがある程度可能です。人工股関節に関しては脱臼を予防するために、和式トイレの使用を控える方が望ましいでしょう。